

申し合わせ事項

1 競技規則

本項に定める以外は、平成28年度（公財）日本障がい者スポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」及び「（公財）日本バレーボール協会競技規則」により行う。

2 チーム編成

チームの編成は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内の計15名以内とし、監督、コーチ、マネージャーが選手を兼ねる場合は、選手名簿にも登録されていなければならない。

3 競技用具

- (1) 試合球は、検定5号球（モルテンV5M5000）とする。
- (2) ネットの高さは、男子2.43m、女子2.24mとする。

4 競技方法

- (1) 試合は3セットマッチとし、2セット先取したチームを勝ちとする。
- (2) 1セット25点のラリーポイント制とし、2セット先取したチームを勝ちとする。
なお、得点が「24対24」の同点となった場合、それ以降は、2点リードしたチームがそのセットの勝者とする。
- (3) 第3セットのコートの交代は、いずれかのチームが13点先取した時に行う。
- (4) 各チームには、1セットにつき最大2回のタイムアウト（1回30秒）が認められる。

5 組み合わせ

- (1) トーナメント戦とし、3位決定戦を行う。
但し、申込状況によって変更することがある。
- (2) 組み合わせについては、当日の監督者会議において決定する。
但し、トーナメントの場合は、前年度優勝チーム準優勝チームはシードとする。

競技進行上の注意事項

- 1 試合開始前、セット間及び終了後の手順は、別表プロトコールのとおりとする。
- 2 試合開始は、原則追い込み方式で行う。
- 3 オーダー用紙は、キャプテンがトスをする時に提出することとする。
- 4 公式練習は、選手名簿に記載された者だけとする。
- 5 負傷の原因となるヘアピンや指輪等の装身具を身につけて競技してはならない。ただし、眼鏡は自らの責任において使用することとする。
- 6 キャプテンは、ゲームシャツと異なった色の幅2 c m、長さ8 c mのマークを胸部の番号の下に明確に付けること。
- 7 監督、コーチ、マネージャーは、受付で配布するIDカードを身に付けること。
※帰るときに必ず受付に返却すること。

(別表)プロトコール 6人制(3セットマッチ)

(試合開始前、セット間及び終了後の手順)

(試合開始前)

| | チーム | 主審・副審 |
|--------|---|---|
| | 両審判員のネット等のチェック時は、ネットを使用せずにウォーム・アップすることができる。 | 両審判員は、ネットの高さ、張り具合、アンテナの位置およびサイド・バンドの位置をチェックする。 |
| 11分前 | キャプテンは、トスのために記録席へ行く。トスの後、記録用紙にサインする。 | 主審は、記録席で副審を立ち合わせてトスを行う。副審は、両方のキャプテン、監督を記録席に導き、記録用紙にサインをさせる。 |
| 10分前 | 両チームが一緒か、または個別に(サービス権を得たチームから)公式ウォーム・アップを開始する。 | 主審は、公式ウォーム・アップ開始を吹笛で合図する。ボール、スコア・シート、ブザー、ユニフォームなどゲームに必要な用具をチェックする。ライン・ジャッジ、ボール・リトリバー、モッパーと打合せを行う。副審は、公式ウォーム・アップの計時を行う。 |
| 7分前 | 個別に公式ウォーム・アップを行っている場合は、交代する。 | 副審は、各チームが個別に公式ウォーム・アップを行っている場合は、その交代を吹笛で合図する。 |
| 4分前 | 公式ウォーム・アップを終了し、各チームのメンバーは速やかにベンチへ戻る。 | 主審は、公式ウォーム・アップの終了を吹笛で合図する。 |
| 3分前 | 全選手は、エンド・ライン上に整列する。主審の吹笛と合図でネット付近で両キャプテンが握手する。そしてチーム・メンバーが続いて握手する。その後、各チームのメンバーはベンチに戻り、スターティング・プレイヤーは、ユニフォーム姿で待機する。 | 主審は、両チームのプレイヤーをエンド・ライン上に導く。主・副審は審判台の前で、ネットをはさんで記録席から見て左側に主審、右側に副審が位置する。両チームが整列したら、挨拶(握手)を交わすように吹笛で合図する。審判役員はそれぞれの位置につく。副審は、サービスゾーンの後ろに位置しているボール・リトリバーにボールを1個ずつ送る。 |
| 1分30秒前 | 主審の吹笛の合図で、スターティング・プレイヤーは、ベンチから直接コートへ入る。 | 主審は吹笛で合図して、プレイヤーをコート内へ導く。副審及び記録員は、それぞれスターティング・ライン・アップを照合する。その後、副審はボールを最初のサーバーに送る。 |
| 0分前 | 最初のサーバーは、サービス許可の吹笛によりサービスを行う。 | 主審は、サービス許可の吹笛をする。 |

(セット間)

| | チーム | 主審・副審 |
|--------|---|--|
| セット終了後 | セットが終了したら、コート上のプレーヤーはエンド・ライン上に整列する。プレーヤーは、主審の吹笛の合図で、向かって右側のサイドラインに沿って進み、支柱の外側を通過したら直接それぞれのベンチへ戻る。 | 主審は、プレーヤーがエンド・ライン上に整列したら、コートを交代するよう吹笛とシグナルで合図する。 |
| 2分30秒前 | プレーヤーは、副審の合図により、ベンチから直接コートに入る。 | 副審は、記録員の合図を受けて、両チームにコートに入るよう吹笛で合図する。その後直ちに、スターティング・ライン・アップを照合する。 |

(最終セットのコートチェンジ)

| | チーム | 主審・副審 |
|----------------------|--|--|
| いずれかのチームが13点目を先取したとき | 主審の吹笛とシグナルの合図で、コート上のプレーヤーは、エンド・ライン上に整列し、主審の吹笛とシグナルで、向かって右側の支柱の外側をまわり、コートを交替する。 | 主審は、13点目の吹笛の後、コート上のプレーヤーをエンド・ライン上に整列させ、コートを交代するよう吹笛とシグナルで合図する。 |

(試合終了後)

| | チーム | 主審・副審 |
|------|--|--|
| 速やかに | 試合が終了したら、コート上のプレーヤーはエンド・ライン上に整列し、主審の吹笛でネットに近づき、相手チームと挨拶(握手)を交わす。キャプテンは、主審と副審に感謝の握手をする。そして記録用紙にサインをする。チームは直ちにベンチから退席する。 | 主審は、コート上のプレーヤーをエンド・ライン上に整列させる。主審は審判台を降り、副審が審判台右側の定位置に着いたら、吹笛と合図で両チームに挨拶(握手)をさせる。 そして両チームのキャプテンを伴って記録席に行き、記録用紙にサインさせ、その後、記録員の記録用紙への記入を完了させる。 |

[注] 個々の大会において必要と認めた場合は、プロトコルの下記の点を変更しても良い。

- 1 ボール1個による試合の場合は、ボール・リトリバーに関するプロトコルを省略する。
- 2 ボール1個による試合の場合は、副審は、セット間の試合の中断、コートの交替及びタイム・アウト時にボールを保管し、試合再開時にサーバーに渡す。